



ボート・カヌー競技のレガシー計画

(公社)日本ボート協会
(公社)日本カヌー連盟

1. ボート・カヌー競技の現状
2. 東京都のボート・カヌー競技における現状
3. 各ステークホルダー/ターゲットの課題
4. 「海の森」を活用したレガシービジョン
5. 「海の森」レガシー戦略

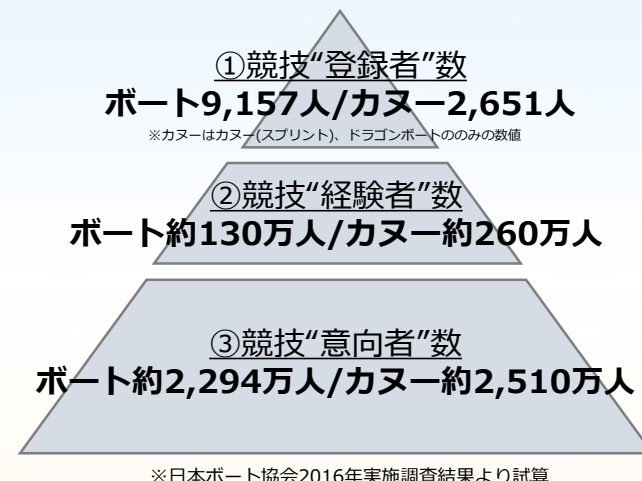
1. ボート・カヌー競技の現状

国内における競技の拡がり

ボート・カヌーは水辺環境豊かな日本においてポテンシャルのある競技。
近年、SUP、シーカヤック等が広く普及し、競技としての裾野が拡大している。

<競技人口とポテンシャル層>

ボート・カヌーは、選手登録を行っていない競技“経験者”や
競技“意向者”も含めると裾野が広く、
ボートは市民レガッタの参加やシニアによる生涯スポーツとして、
カヌーはSUP、シーカヤック、ドラゴンボートなどレジャーとして、
広く普及している



ボート・カヌー競技の提供価値

“究極のチームスポーツ”と言われ、主に4つの提供価値を有する。

“究極のチームスポーツ”

チームワーク

ゴールに対して後ろ向きに進行する艇で（ボート）、一糸乱れぬ協調性を持って、共に力を合わせる

集中力

バランスが不安定な艇を進めるパワーと精度を追求するために究極の集中力を必要とする

精神力

フェアプレーの精神と、自己鍛錬、自己犠牲の精神力を培う

環境

自然の中で行う競技であり、漕ぎ手はその環境を尊重し守る

2.東京都のボート・カヌー競技における現状

東京都における競技環境

東京都には、国内基準に適したコースがなく、競技環境が整っていない。

日本全国に存在するボート（カヌー）競技コースは60会場。
うち、東京都には1コースも存在しないのが現状。

東京都でボート・カヌーを漕ぐ競技者は、他県のコースへ遠征練習に出掛けるか
環境の整っていない河川で何とか練習に励んでいる状況。

<国内>
60会場



<都内>
0会場

【国内A級コース】 4会場
【国内B級コース】 39会場
【国内C級コース】 17会場

直線コースの取れない
曲がりくねった
幅の狭い河川で練習せざるを得ない

首都圏（埼玉県戸田漕艇場）における競技環境

1964年東京オリンピックのレガシーとして、国内のボート・カヌー競技の聖地となっている戸田漕艇場（埼玉県）は、開催後50年以上が経過し多くの問題が起きている。

<戸田漕艇場の課題>

国際基準を 満たしていない

1964年東京オリンピックから50年以上が経過。
現在の国際基準にコースが満たしていない。

安全面のリスク

- ・ 40団体、1,700人のアスリートが登録。
毎朝1,000クルー以上のボート・カヌーが同時に練習をする環境で接触事故が頻発。
- ・ 声を出すことのできないパラアスリートは練習ができない状況。

練習機会の不足

- ・ シーズン中は、大会やイベント開催に伴いほぼ毎週末コースが閉鎖され、練習することができない。
- ・ 新規に艇庫/合宿所を建設したいという問い合わせもあるが、キャパシティ的に困難な状況。

今後のボート・カヌー競技の発展のためには、
戸田漕艇場に替わる新しいレガシーが
東京に求められている

過去実施のオリンピック・パラリンピック会場事例

海外における事例紹介

<シドニー国際レガッタセンター>
<ホワイトウォータースタジアム>
(オーストラリア)

スポーツ施設のみならず、
バーベキュー施設などを併設し、市民の憩い
の場とすべく開発。世界カヌー選手権・
コンサート等に活用されている。

<イートン・ドニー>
(イギリス)

世界有数の規模を誇り、大会後も
引き続きトレーニング施設・大会
会場として利用されている。

3.各ステークホルダー/ターゲットの課題

3.各ステークホルダー/ターゲットの課題

4つのステークホルダー/ターゲットにおける課題は以下の通り。

都民

臨海地域であるにも関わらず、ボート、カヌー等の水上スポーツに親しめる場所もほとんどない。
→ボート・カヌーに接する機会がない

都内中高生

競技環境・練習環境が不足している（ほとんどない）
→中学・高校にボート部がなく、競技人口が少ない

ジュニアアスリート

競技環境・練習環境が不足している
→既存施設(戸田漕艇場)に競技者が集中／練習効率の悪さ／混雑による安全面のリスク

トップアスリート

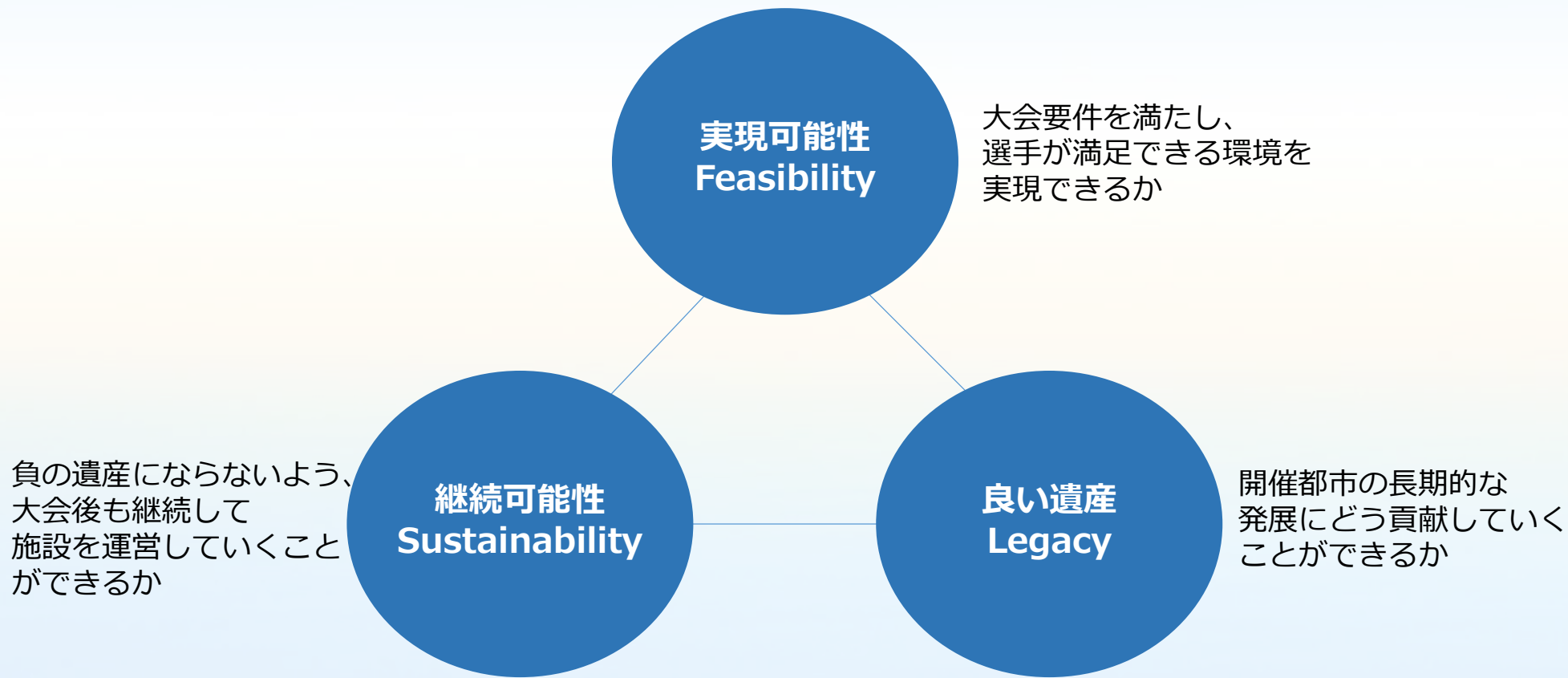
国際・国内大会基準を満たしたコースが東京都内にない
→既存施設(戸田漕艇場)に競技者が集中／練習効率の悪さ／混雑による安全面のリスク

4. 「海の森」を活用したレガシービジョン

レガシーとは

レガシーとは、オリンピック・パラリンピック大会後の長期にわたる特にポジティブな影響のこと。開催都市の長期的な発展プランをどうつくるか、が問われる。

IOCのキーワード&レガシー



「海の森」を活用したレガシービジョン

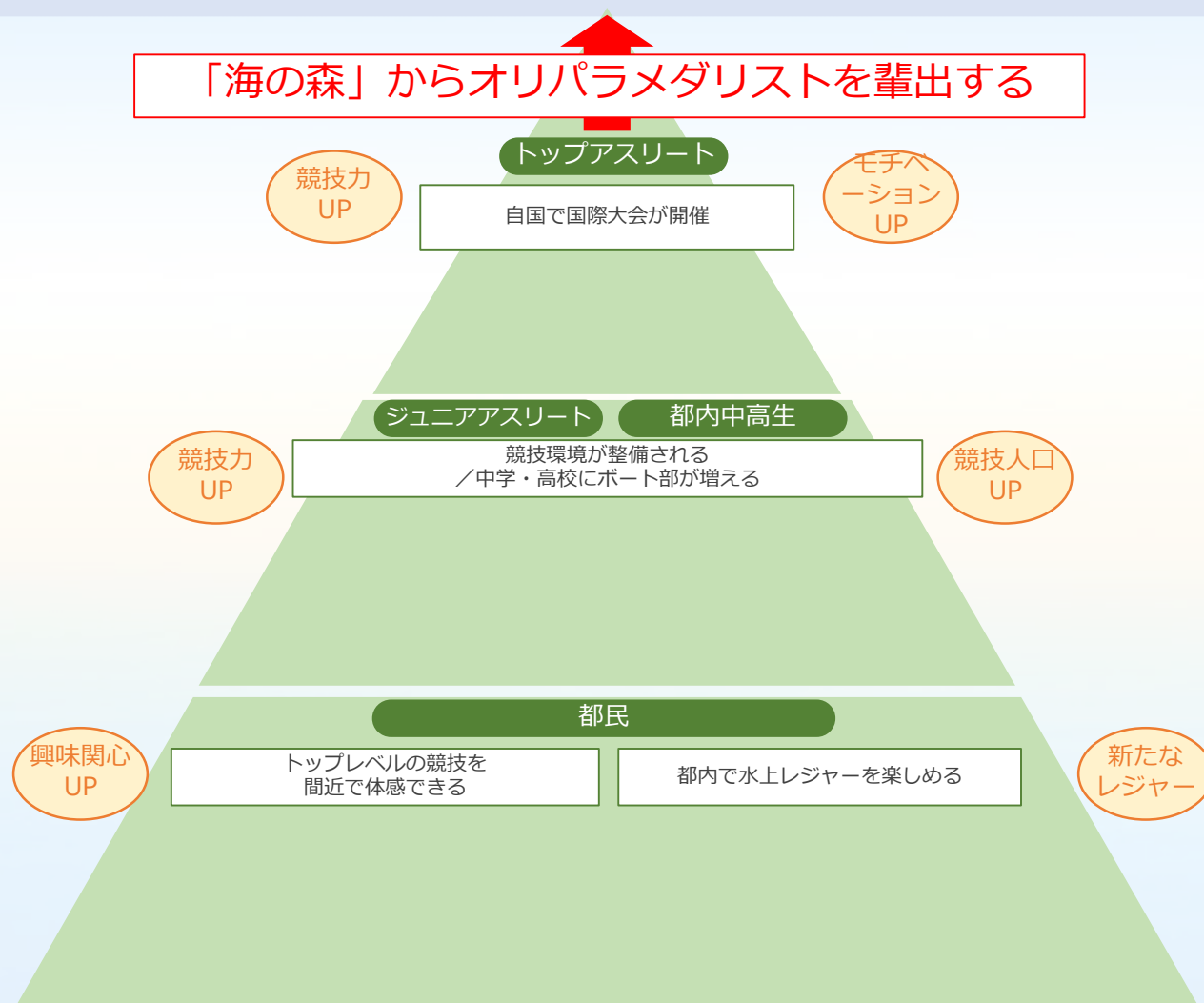
「海の森」においては、(A)ボート・カヌー競技、(B)「海の森」施設の2つの視点でのレガシービジョンがある。

(A) ボート・カヌー競技のレガシービジョン

(B) 「海の森」施設のレガシービジョン

(A) ボート・カヌー競技のレガシービジョン

都民からトップアスリートまでの幅広いターゲットにおいて、競技人口を拡大させながら、世界に通用する競技力向上を実現し、「海の森」からオリパラメダリストを輩出する。



(B) 「海の森」施設のレガシービジョン

都民に水上スポーツ体験、水上レジャーの機会を提供する憩いの場として、都心にありながら緑に溢れ、人々が集い、にぎわいが生まれる水辺空間を創出する。

都心にありながら緑に溢れ、人々が集い、
にぎわいが生まれる水辺空間を創出する

ボートの
聖地

スポーツ
体験

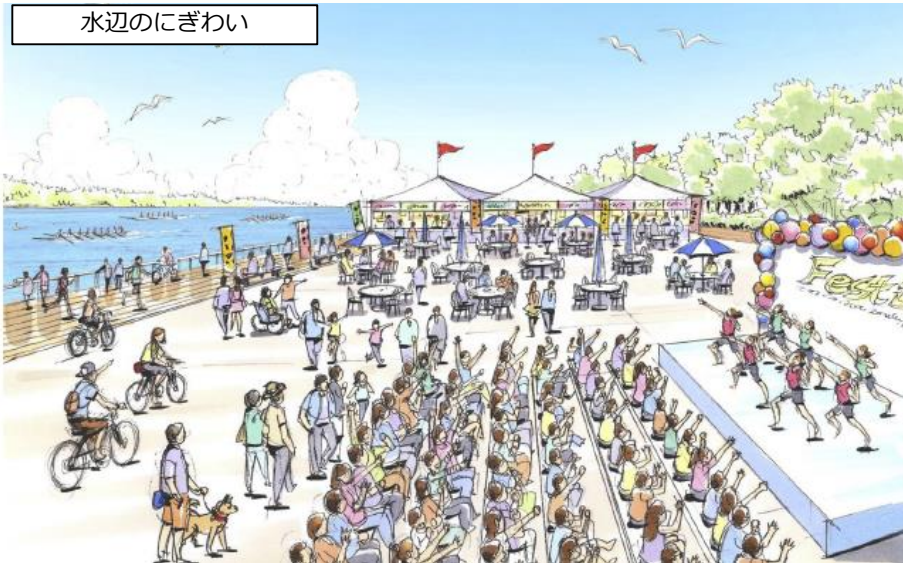
レジャー
体験

文化
交流

ボラン
ティア

地域
活性化

水辺のにぎわい



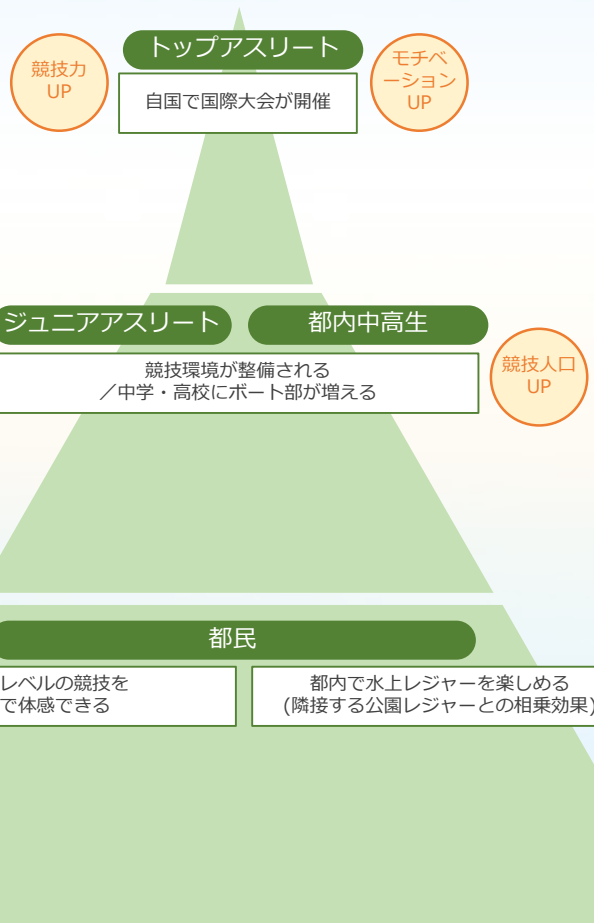
水辺利用のイメージ



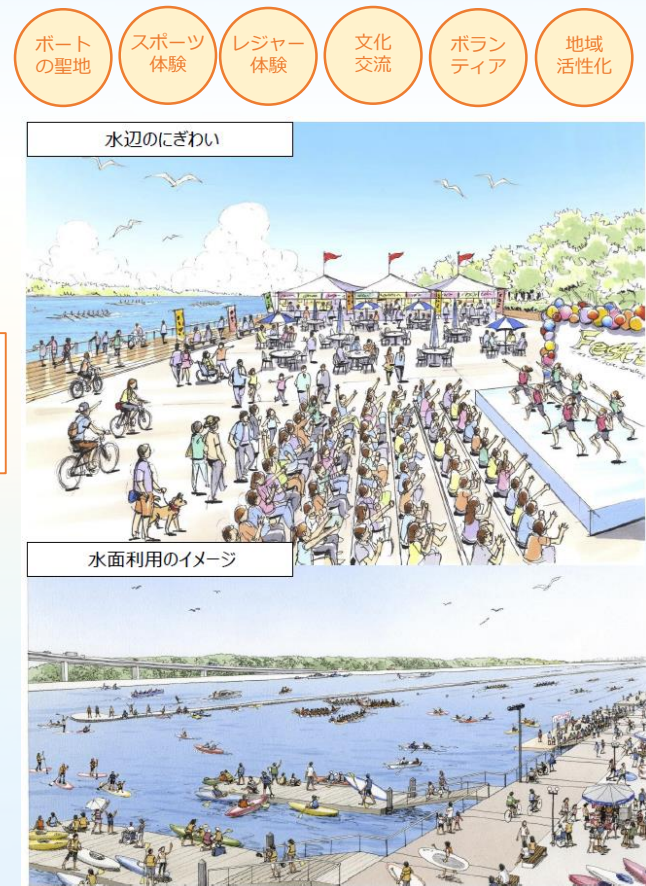
レガシーの相乗効果

競技のレガシーと施設のレガシーは相乗効果として互いに高め合っていく関係にある。

(A)ボート・カヌー競技のレガシー



(B)「海の森」施設のレガシー



体験の機会や環境の提供

競技のレガシーと施設のレガシーの相乗効果

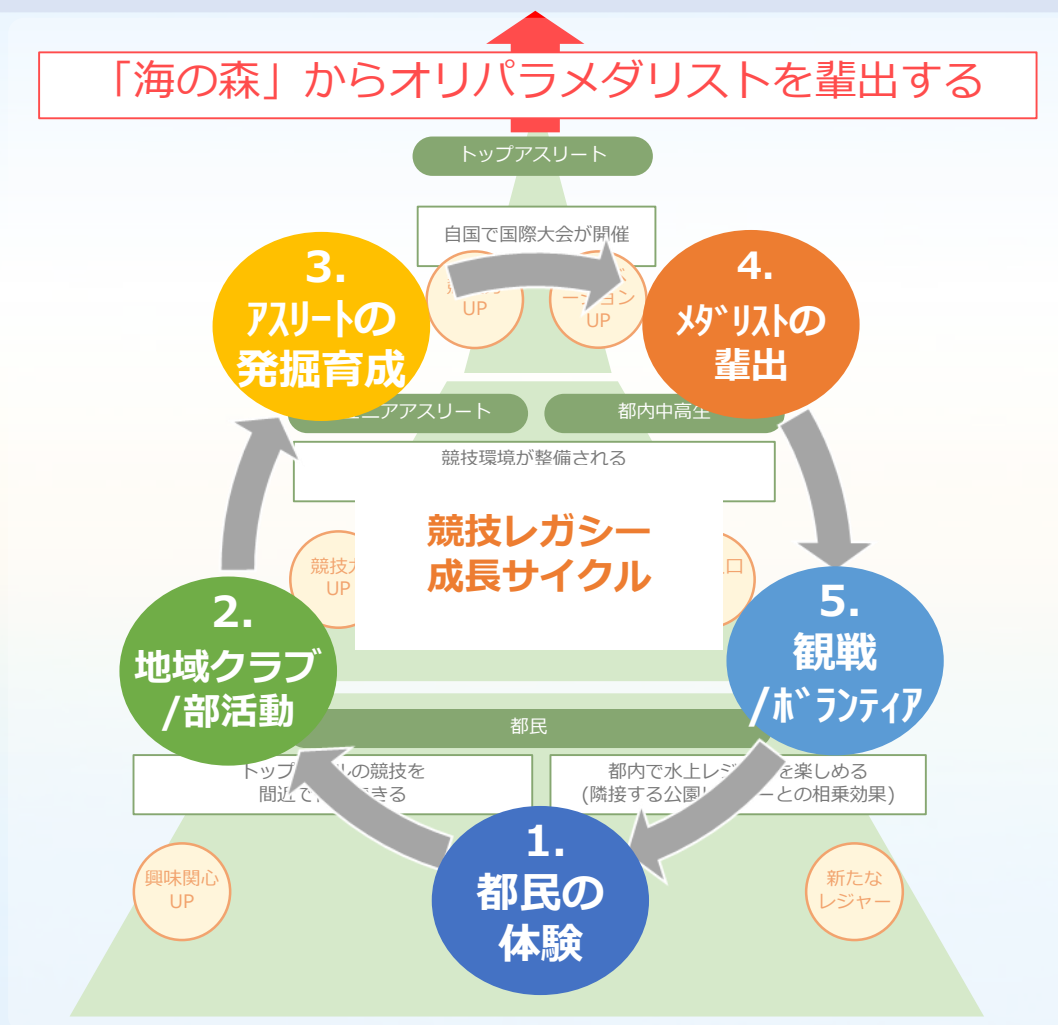
競技への興味関心の高まり

新たなレジャー

5. 「海の森」レガシー戦略

(A) ボート・カヌー競技のレガシー戦略

都民からトップアスリートまでを巻き込んで、5つの成長サイクルをまわしていく。





老若男女問わず様々な層がボート・カヌー競技を体験できる機会を創出。
“競技者へのきっかけ”の場と位置づけ、競技人口の拡大をはかる。

<通年開催>

ボート・カヌー教室

海の森に訪れた人が、年間を通じて気軽にボート・カヌーと
いった水上レジャーを楽しめる場を提供する。

※日本ボート協会、日本カヌー連盟が主催する

<定期開催>

都民レガッタ

ドラゴンボート
体験乗船会

子どもから大人までが気軽に参加できるイベントを開催。
競技者へのきっかけの場として競技人口拡大をはかる。

※日本ボート協会、日本カヌー連盟が主催する

- ・ 競技へのきっかけ (水上スポーツへのきっかけ)
- ・ スポーツ振興/健康増進
- ・ 世代間交流の拡大



(A) ボート・カヌー競技のレガシー戦略

1. 都民の体験

国内における事例紹介

<社内・学内レガッタ>
<都民向けレガッタ教室>

戸田漕艇場においては、年間35回以上の社内・学内レガッタが開催され、競技未経験者の新たな体験の場となっている。
都内においても「江戸川区ボート協会レガッタ教室」「水元公園ボート教室」等の各市民団体が主催し、都民がボートに触れられる環境を提供している。

<カヌー教室>



NPO法人青梅市カヌー協会では、カヌー教室や体験カヌーなどを年間で30回以上行うなどして地元密着の活動を行っている。また、江戸川区では学校カヌー教室・区民カヌー体験教室を今年は40回以上開催、江東区でも数多くのカヌー教室を開催している。
このような施設の活用が水辺のスポーツエリアの場として近隣地域の活動の幅を広げ、自然との共存の素晴らしさを継承していった。



(A) ボート・カヌー競技のレガシー戦略 2.地域クラブ/部活動

<地域クラブ>

「海の森ボート・カヌークラブ（仮称）」を設立。ジュニア世代の受け皿としてなる他、一般競技者・シニア・パラアスリートを含めた都民の新しいコミュニティとなる。

<現状>

ボート・カヌー競技への
興味はあっても活動の場が
限られる

都内小中高生

都民
(競技者・シニア)

パラアスリート

「海の森ボート・カヌークラブ（仮称）」設立

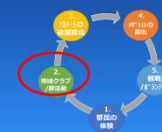
競技を通じた都民の新たなコミュニティ形成

ジュニア世代の受け皿。クラブを
きっかけにジュニアアスリートへ育成

生涯スポーツとしての
競技者人口増

練習機会環境の提供

※東京都ボート協会において、地域型総合クラブ設立のための調査・準備に着手している



(A) ボート・カヌー競技のレガシー戦略 2.地域クラブ/部活動

<部活動>

練習環境が大きく改善され、中学・高校の「ボート部」「カヌー部」の誘致に繋がる。
東京都として、ジュニアアスリートを「海の森」から輩出していける環境ができあがる。

<現状>

東京都の高校でボート部があるのは
わずか4%、ボート部・カヌー部を
作りたくても環境が整っていないた
め組織化できない

東京都高校・生徒総数
440校 (31.8万人)

わずか4%

ボート部のある高校・部員数
17校 (275人)

中学・高校の「ボート部」「カヌー部」増加

東京都における競技レベルが飛躍的に向上。
ジュニアアスリートを「海の森」から輩出
していける環境ができあがる



(A) ボート・カヌー競技のレガシー戦略 2.地域クラブ/部活動

国内における事例紹介

<ワセダクラブ>

2003年、早稲田大学が持つスポーツの人的・物的資源を活用し、地域におけるスポーツの振興・発展、日本のスポーツ改革を目指して創立。ボートディビジョンは2004年から活動開始。

主な活動は、小中高対象の週1回のスクールと年1回の大会開催（ワセダレガッタ＝体験乗艇会、小中招待レース、高校選手招待レースを組み合わせたオリジナル大会）

スクール（今期で13期）

■スクール生属性

居住地域 戸田市50%、それ以外（埼玉・東京）50%

戸田市内での情報から50%のほか、他の小学生クラブから進級などが40%

早実小など早稲田関係の情報から10%

■スクール生数

（休会除く）24名（高4、中9、小11）

■卒業後の活躍

1. 鈴木智也（第一期生） 早大学院・早大漕艇部で活躍（早慶レガッタ第二エイト勝利）
現在早大大学院スポーツ科学研究科修士2年、来年より中または高の保健体育教師として活躍予定。
2. 溝口女華（じょはな） 現在 埼玉県立南稜高校2年ボート部で活躍 2015年度全国選抜大会
クオドルプル優勝、2016年関東選抜大会シングルスカル優勝



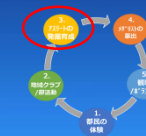


日本ボート協会が主催するトライアウトを海の森において定期的を実施。優れた資質を有するジュニアアスリートを全国から発掘する。

<発掘> 海の森トライアウト（仮称）

野球、サッカー、ラグビー、バスケ、バレー等の経験者でアスリートとしての優れた資質を持ちながら、様々な理由（怪我、進学等）で競技を継続できなかった選手をトライアウトを行い発掘。ボートカヌー競技におけるメダルポテンシャルアスリートとして育成プログラムを推進していく

※日本ボート協会、日本カヌー連盟が主催する



JISSやFISAと連携したハイパフォーマンスセンターを設立し、国内強化拠点とするのは勿論のことアジア・オセアニア地区におけるトレーニング・競技研究・指導者育成の拠点としていく。

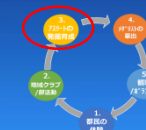
<育成>

海の森ハイパフォーマンスセンター（仮称）設立



現在戸田にあるJOC指定、JISS運営の「競技別（ボート）強化拠点」を関係先と調整し海の森に移転する。

- ・ FISAと連動しアジア・オセアニア地区におけるトレーニング拠点へ
- ・ JISSの協力を得て、ボート・カヌー競技の研究の場とする
- ・ 一流の指導体制を整え、講習・研修会を開き指導者育成に努める



(A) ボート・カヌー競技のレガシー戦略 3.アスリートの発掘育成

国内における事例紹介

<日本ボート協会 タレント発掘事業>

日本スポーツ振興センターの助成を受け、ボートに適したタレントを有する選手の発掘活動を実施している。

■ 2015年度活動実績

- ・全国50か所にてトライアウト実施。2735名(前年度695名)の参加
- ・発掘したアスリートに対し、計28回の育成合宿並びに3回の海外育成プログラムを実施

メダルポテンシャルアスリートA 大門千紗選手（日田林工高校）

→タレント発掘事業によりボート競技に出会う。
2015年全国日本軽量級選手権優勝（最年少記録）
世界ジュニア選手権日本代表等、成長目覚ましい。

メダルポテンシャルアスリートA 選手リスト

| 選手 | 所属 |
|---------|--------|
| 大門千紗 選手 | 日田林工高校 |
| 高島美晴 選手 | 明治大学 |
| 遠山秀雄 選手 | 伏見工業高校 |





世界大会を誘致、開催しボート・カヌー競技におけるトップアスリートの国際競技力の向上をはかる。「海の森」からオリンピック・パラリンピックのメダリストを輩出する。

国際大会 毎年1大会誘致を目標

海の森からオリパラメダリストへ



World Rowing Championships
Asia Rowing Cup

Canoe Sprint World Championships

| 区分 | 国際大会 | 国内大会 | 計 |
|-------------|----------------------------|------------------------|------|
| ボート | 毎年1大会誘致を目標 (世界大会・アジア大会) | 全日本選手権など 14大会 うち都大会8大会 | 15大会 |
| カヌー (スプリント) | | 日本選手権など 4大会 | 5大会 |
| トライアスロン | | シニアトライアスロン大会など 5大会 | 6大会 |
| ドラゴンボート | | 東日本ドラゴンボート選手権など 2大会 | 3大会 |
| SUP | - | 全日本選手権 1大会 | 1大会 |



国際大会の観戦を通じて、観るスポーツとしてのボート・カヌーの魅力伝える。
また大会を支えるボランティアを通じた国際交流の場を提供する。

<観戦>

観るスポーツとしての魅力

世界最高峰の大会を間近で観戦することでボート・カヌー競技の持つ迫力臨場感を体感。

<ボランティア>

ボランティアを通じた交流

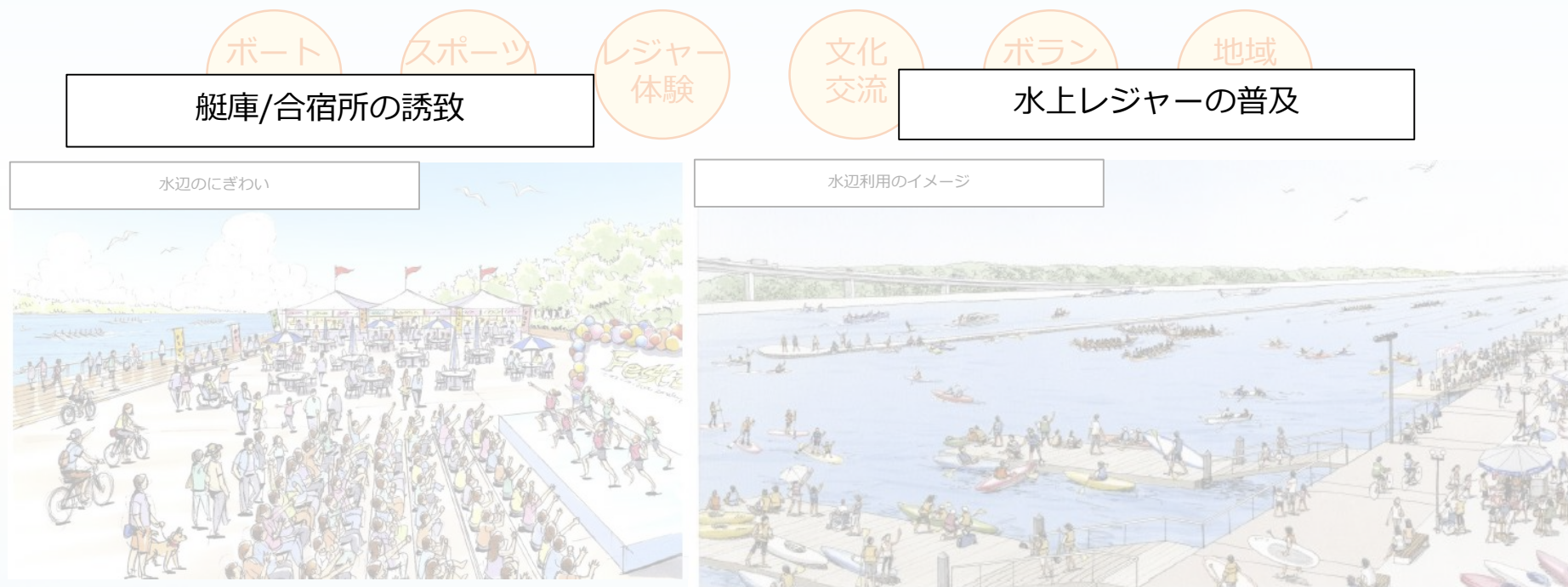
競技ボランティアを募集し、大会の運営や選手サポートを計画していくことで国際的な交流の場を作る。

ボートカヌー競技への関心の高まり
自らの体験の機会へ

競技ボランティア…競技に関する業務を実施。(ウォーターマン、審判業務サポート等)
2016年2月より日本ボート協会が募集を開始し、すでに約150名の登録あり

(B) 「海の森」施設のレガシー戦略

「海の森」のレガシーを確かなものにするため、競技団体として、艇庫/合宿所の誘致、水上レジャーの普及などに取り組む。



- ・艇庫/合宿所の建設においては、すでに10団体程度の問い合わせあり
- ・また戸田漕艇場の艇庫の建て替えのタイミングでの移転や、現在艇庫を持たない団体による新規の建設等、今後ニーズが拡大する可能性あり



Thank You!
TOKYO2020 @海の森水上競技場